

## 大日本紡績東西二万五千の 従業員諸君に訴ふ

大日本紡績の十二工場貳萬五千の男女工諸君よ！攝津工場三千の兄弟姉妹は、現在斯の如き取扱を受けています

一、攝津工場では私達を犬猫程にも感じて居らない。殊に寄宿舎に居る女工には食はせないで働かせようとして居る、一例を言ひますと、食事中に多勢の人達が混雑して「めし箱」や「おかづ」を落したら、いくらお願しても二度と御飯も呉れなければ「おかづ」も呉れない。私達は仕事して腹が空いていても食ふ事が出来ない。うろく／＼している仕事で笛が鳴る！鬼の様な上役が来て無理に仕事場に引込まれる、機械の音はする、腹は空いて来る、仕事が出来ない。「むごい」おちさんが来て頭から「しかられる」私達は生きた氣持がない。こうして一晩中勤めて寄宿舎に歸ると一時につかれが出て私達は病人になつてしまひます。私達は何にも金を澤山欲しいとは思ひませんが、食事だけは充分に食べたいと思ひます。

二、攝津工場には十二三ヶ所の便所がありますが、いつでも一はいであふれていません、會社で社宅を清潔にせよと常に私達に言つていますが、會社の方で私達を人間と思つて取扱つてくれないので不平であります。

三、私達は夜勤が一週間續くと身体が綿の様につかれます、で、夜勤には三割の手當が欲しいのであります。

四、掛りの社員の人達はわたし達にみだらな行爲をします、そしてはねつけます。ご仕事の上や賞與の時にかたきを取られます、わたしたちは娘でいん賣に紡績に行つたのでありません。